

ゆぎょうじ

遊行寺だより

ホームページでも
配信しています

秋とはいえ、まだまだ暑い日が続いています。

今月は伝統ある「薄念仏会」、一遍上人をお偲びする「秋季開山忌」がございます。開山忌では法要と並んで奉納芸能も予定しております。皆様お誘い合わせの上、ご参詣ください。

— 今月の行事予定 —

◆^{すすきねんぶつえ}薄念仏会【15日（木）午後1時30分】

「薄念仏」は踊り念仏の一つであり、一遍上人の時代より続いています。

◆秋季開山忌【21日（水）～24日（土）】

宗祖一遍上人の忌日法要です。各家先祖供養を受付いたします。

また奉納芸能として「講談」「落語会」を催します。

◆^{げつれいほうわかい}月例法話会

【23日（金）大施餓鬼法要に引き続き】

今月は本堂にて行います。ぜひ、ご参加ください。

今月のお話は

「無縁の慈悲」です。

講師：時宗宗学林学頭

滋賀県大津市 長安寺 ^{ながさわしょうこう}長澤昌幸師

— 今月の催事予定 —

◆藤沢市民まつり【24日（土）】

主催：藤沢市民まつり実行委員会事務局

TEL：0466-55-6883

屋台出店・プロレス「諏訪魔氏」・下郎売りの口上

大道芸・遊行舎芝居・照手姫スタンプラリー

野だて・地元ミュージシャン演奏...など

◆骨董市【4, 18日】

毎月第1日曜日…^{のみ}蚤の市

毎月第3日曜日…ボロ市

* 午前7時より午後4時まで(雨天中止)

◆野菜市【7, 14, 21, 28日】

毎週水曜日 午前中・雨天中止

◆^{すすきねんぶつえ}薄念仏会とは

『一遍聖絵』第五巻に一遍上人一行が一遍上人の祖父河野通信の墓を囲んで座している姿があり、塚の上部には薄と思われる草が2、3株ほど描かれています。この時墓を回って読経したと記述されており、この一連の法要が薄念仏の始まりです。

特徴として、本堂内陣の前机の前に置いた大花瓶に、薄、松、青竹を生け、青竹の高い位置に遊行四十二代尊任上人の「笹名号（ささみょうごう）」をかけ、内陣と外陣の境目に18個の白張提灯を吊るします。そして、この提灯をもらい田畑に吊るしておくとい虫がつかないという逸話も残っています。



* 遊行寺宝物館

企画展『聖者と聖典』～羅漢図を中心に～ 【7月23日～9月12日】

・開館日：毎週月・土・日曜日・祝日 ・入館料：500円（小・中学生300円）

泥中の蓮華

宗祖の

今月のおこたば

私事ですが、毎月お檀家さまにお配りしているこの「遊行寺だより」の発行を担当することになって1年が経ちました。皆様に仏教をできるだけ身近に感じていただくため毎月法話を考えて執筆しているのですが、いざパソコンに向かうとピタリと手が止まってしまい、ものを書くことの難しさをひしひしと感じている今日この頃です。

さて、今月は“書くこと”を通じて仏教界に多大なる功績を残した仏典翻訳家「鳩摩羅什(クマーラジーヴァ)」をご紹介します。

鳩摩羅什(350-409 頃)は中国西域にある龜茲国という国のたいへん優れた僧侶でした。“でした”と過去形にしたとおり、彼は長安に迎えられた際に、時の権力者の謀略によって戒律を破ってしまい、還俗(僧侶をやめ俗人に戻ることを)を余儀なくされます。

戒を破ってしまったことに対する恥辱や悔恨に悩み苦しみながらも鳩摩羅什が仏教から離れることはありませんでした。むしろ自らの経験を大乘仏教の思想に重ね合わせて仏教理解を深め、仏道を歩んでいきます。その成果が『阿彌陀經』や『妙法蓮華經』、『維摩經』といった数々の大乘經典の翻訳になって表れます。

大乘仏教では出家僧侶、在家信者を問わず、悟りを目指し、救いを求めるすべての人々が仏になる可能性を持っていると考えます。そして実は日本人が信仰している仏教はすべてこの大乘仏教です。

鳩摩羅什が翻訳した『維摩經』に次のような一節があります。

「譬^{たと}えば高原の陸地^{れんげ}には蓮華^{しゅう}を生ぜず。卑湿^{ひしつ}の淤泥^{おてい}にすなわち此の華を生ずるが如し。」

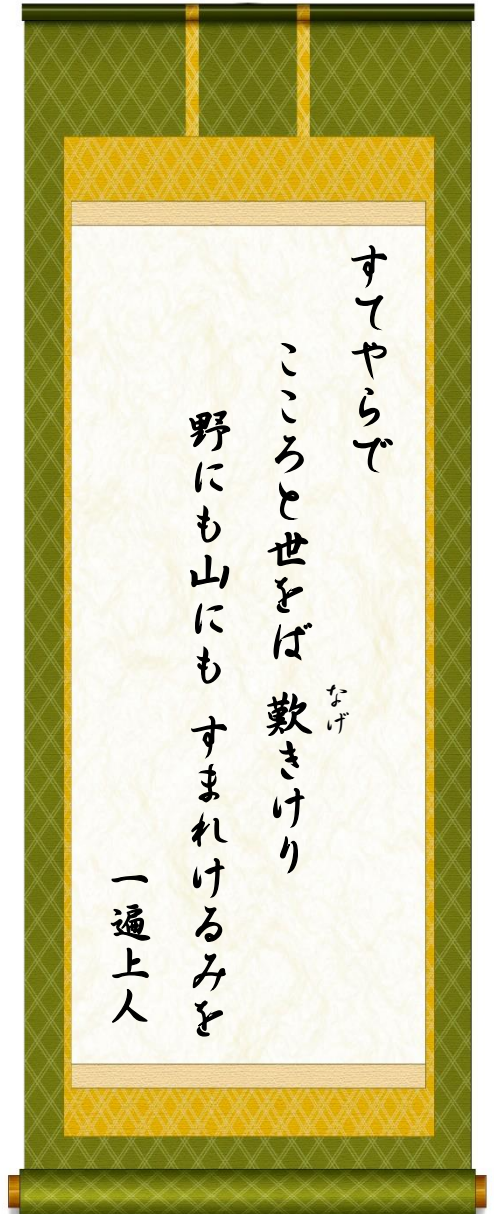
意識すると「蓮華という美しい花は、歩みやすい陸地のような環境では育たず、泥の中でこそ育ち大輪を咲かせる。」という意味です。

この世に生きている限り辛い出来事や苦しい環境は避けられません。しかしそれを嘆くのではなく、むしろその中で力強く歩むことが美しい花を咲かせるのです。蓮華の姿に勇気づけられるのは鳩摩羅什だけでなく現代の私たちも同じではないでしょうか。

合掌



フェイスブックでも遊行寺の様子や情報を配信しています。最新記事をお読みいただけますので、ぜひ“いいね!”してください♪



～一遍上人のおこころ～
もともとこの身は苦しい環境でも生き抜くことができるというのに、それをできないといって、自分の心や世の中をつらいつらいと嘆いていることよ。



時宗總本山
遊行寺

〒251-0001

神奈川県藤沢市西富1-8-1

TEL:0466(22)2063 FAX:0466(23)8243

ホームページ: <http://www.jishu.or.jp>

